



年末手当に関する若手の声③

労働実感について

- ・ コロナ感染やワクチン接種後の免除などでも運休を出さずに乗りきってきたのは、社員が休日出勤や補乗の協力をしたからだ。
- ・ 訓練で当直から感謝の言葉はもらったが、それだけでは協力しない社員も出てくるだろう。
- ・ 乗務効率が明らかに高くなり、乗務キロも大幅に増えている。
- ・ 統括センター化・融合行路などで業務の幅が広がっている。
- ・ コロナが再拡大した夏も休勤や補乗で困難を乗り越え、一切の運休を出さなかった苦勞を感じてほしい。
- ・ 訓練会で副長よりお礼が述べられたが、満額回答で誠意を見せてほしい。
- ・ 「本来業務」ってなんでしょう？今までも不明確な点が多かったが、統括センター化でさらにわからなくなった。
- ・ 最近の休日は外出する人も増え、電車も混んでいる。
- ・ 比較するなら、コロナ前でなく前年と比較するべきだ。
- ・ コロナも含めて会社の方針が変わり、社員に普段の業務をするのは当たり前、それ以上やって初めて評価をつける、評価主義に変わってきたと思う。
- ・ 逆に周りが色々と手をつけ出して、倒れないか心配でもある。
- ・ 我々はあくまで鉄道が本分である。
- ・ 今の姿勢に疑問は持ちつつも、それでも会社の利益のためにできることは協力してきた。そこに対して報いるべき。
- ・ 効率化しか考えていない業務の融合や兼務は知識・経験不足を招き、安全レベルの低下に繋がる。

年末手当満額回答をかちとるために

J R 東労組に結集しよう!